

0468

川



第一七號

秘

支那時報第十八號

昭和十一年十二月二十八日

青島紡績會社ノ罷業ト海軍陸戰隊ノ揚陸

(附)

上海紡績會社罷業問題

軍

令

部



陸軍省 支那時報第十八號 昭和十一年十二月二十八日

目次

第一 罷業ノ原因ト其ノ特色 ..... 一頁

第二 罷業ノ經過概要 ..... 三頁

第三 取締ニ關スル日支折衝 ..... 三頁

第四 全工場ノ閉鎖ト陸戰隊ノ揚陸 ..... 六頁

第五 陸戰隊揚陸ヨリ撤收迄ノ一般經過概要ト支那側ノ抗議 ..... 八頁

第六 事件ノ解決 ..... 一頁

第七 陸戰隊撤收ト其ノ後ノ情勢 ..... 二頁

第八 警備艦船ノ行動 ..... 一四頁

(目次終)

## 第一、罷業ノ原因ト其ノ特色

今次ノ青島邦人紡績會社罷業ノ主要原因ト認メラルルモノ概ネ左ノ如シ

(1) 上海ニ於ケル邦人紡績會社ノ罷業ニ刺戟セラレタルコト

(2) 上海ヨリ潛入セル不逞分子（工人關係連絡者）ノ策動

(3) 國民黨部、共產黨員及其ノ他不良ノ徒（青島國術館員等）ガ工人ヲ煽

動シタルコト

(4) 綏東事件ニ關連シ青島ニ於ケル一般的反日感情高マリシコト

就中(2)及(3)項ニ依ル所最モ大ニシテ上海ヨリ相當多數ノ罷業連絡者來青シ

アリ又青島鐵路黨部及市黨部等ノ關係者ニシテ直接罷業問題ニ没頭セル

者尠カラザリシ事實ハ此ノ間ノ消息ヲ稟書キスルモノト謂フベシ

而シテ罷業全般ヲ通ジテ概ネ左記ノ如キ特色アリ

(1) 背後ニ大ナル指導機關存在ノ疑濃厚ナリシコト

後述上海紡績罷業ト同系ナルガ如ク當初何等ノ條件ヲ提出セズ突如  
 怠業状態ニ入り男工ハ袖手傍觀シ年少女工ヲシテ攪亂セシメ善良工  
 迄怠業ノ已ムナキ情勢ヲ馴致セリ

(四) 罷業經過ハ比較的穩和ナルモ相當根強キ統制アリシコト

直接ノ煽動者ハ抗日人民戰線系ト目セラレ暗中ノ指導者ハ國民黨ノ

駐青官吏及其ノ息ノ掛リシモノト推斷セララル

是レ市政府當局ノ取締ニ隔靴搔痒ノ怨多クアリシ眞因ナリト認メラル

尙罷業ニ關スル工人側ノ要求大要次ノ如シ

(イ) 工賃値上 (理由物價騰貴。會社ノ採算有利)

(ロ) 休憩時間ノ延長ト待遇改善 (〇九〇〇時及一五〇〇時休憩ヲ與フベ

シ)

(ハ) 工人ノ保障 (理由ナク解雇セザルコト)

(二) 公會ノ承認及公會代表者ニ日給支給

(三) 項等ヨリ見ルモ背後關係アルハ想像ニ難カラズ

## 第二、罷業ノ經過概況

十一月中旬青島内外綿工場ニ罷業起リ大日本紡、日清紡、豊田紡等ニ漸次波及セルガ其ノ原因ガ前述ノ如ク單ナル工人ノ經濟的要求ニ基クニ非ズシテ黨部其ノ他抗日不逞分子ノ煽動ニ依ル極メテ惡質ノモノナリシ爲我ノ取締要求ト市政府側ノ相當誠意アル取締モ殆ンド實效ヲ擧グズ概ネ別紙ノ如キ經路ヲ辿リテ遂ニ十二月二日全工場閉鎖ノ已ムナキニ至リ

## 第三、取締ニ關スル日支折衝

前項所説ノ如ク罷業ノ前途容易ニ樂觀ヲ許サザルモノアリシトコロ十一月二十七日迄市長ヨリ工人側ノ要求承認ト交換的ニ罷業鎮壓ヲ期ス

ル旨申出デタルヲ以テ紡績同業者ハ總領事ノ斡旋ニ依リ左記條件ニテ  
 事態拾收ノ全責任ヲ市長ニ負ハシムルト共ニ其ノ面子ヲ立ツルコトトシ  
 テ之ヲ容認セリ

(イ) 十二月一日ヨリ賃金五分増給

(ロ) 食事休憩時運轉中止

(ハ) 故ナクシテ職工ヲ解雇セズ

(ニ) 職工ヲ虐待セズ

斯クテ沈市長ハ同日全工人ニ對シ右解決條件ヲ傳達スルト共ニ左記要  
 旨ノ布告ヲ發シタリ

今後抵抗若シクハ秩序ヲ紊ス者ハ嚴罰ヲ以テ之ニ對シ又秘密會合結  
 社等非法行爲アレバ國法ニ照シ處分ス

然ルニ二十八日ニ至リ市長布告發布アリシニモ拘ラズ長崎紡ハ全罷業

ニ陥リシヲ以テ總領事ハ市長ニ對シ彈壓ヲ強要シ駐青田尻海軍武官亦市長ニ對シ第三艦<sup>隊</sup>長官ノ傳言トシテ徹底的取締ト即急ナル解決手段ヲ要望セリ

之ニ對シ沈市長ハ何レモ後一週間待タレ度旨苦衷ヲ披瀝セリ二十九日ニ至リ沈市長ハ自ラ四方、滄口方面ニ出張取締ヲ督勵スルト共ニ夜ニ至リ市政府社會局勞働股主任陳克耀ヲ背後關係ノ主謀者トシテ其ノ部下タル調査員四名ト共ニ檢舉セリ

(註)十一月二十四日ニハ四方鐵路工廠原動組長王永春ヲ背後關係者トシテ逮捕シアリ十一月三十日迄ニ罷業關係トシテ市政府當局ニテ檢舉セルモノハ百數十名ニ上レリト

#### 第四、全工場ノ閉鎖ト陸戦隊ノ揚陸

一 市長ノ誓約アリシニモ拘ラズ其ノ取締ハ依然徹底ヲ缺キ各工場ノ動搖乃至罷業容易ニ終熄セズ黨部其ノ他ノ使喚ニ依リ情勢却ツテ惡化ノ傾向アリシノミナラズ怠業遷延セバ將來工人ニ對スル會社側ノ地位ヲ甚ダシク不利ナラシメ一方徒ラニ侮日觀念ヲ助長スル懸念大ナリシヲ以テ紡績聯合會ハ十二月二日午後ノ總會ニ於テ斷然全工場ヲ一齊ニ閉鎖スルニ決シ一七〇〇告示ヲ發シテ之ヲ實行セリ

ニ スクテ事件發生以來續々青島ニ集結シアリシ我警泊艦ハ情勢此ノ儘放置スル時ハ意外ノ事件發生ヲ豫期セラレ工場閉鎖ハ益々其ノ勢ヲ助長シ正ニ帝國臣民ノ生命財産危殆ニ瀕スル虞大ナリシヲ以テ不祥事件ヲ未然ニ防止スル爲三日〇四三〇聯合陸戦隊ヲ揚陸〇六一〇概ネ左記ノ地點ニ兵力配備ヲ完了セリ



海軍集會所（陸戰隊本部）	球磨、葵	陸戰隊	二一一名
内外綿	長良		一五五名
青島絲廠	天龍		一二〇名
第一小學校	龍田		一二〇名
公大第五廠	二上驅逐隊		一四九名
			七五五名

計

陸戰隊揚陸ニ關シ北支警備先任指揮官トシテ別紙第二ノ聲明ヲ談話ノ形式ニテ發表セリ

海軍陸戰隊ハ揚陸ト同時ニ公安局ニ通告ノ上球磨及長良陸戰隊ノ一部ヲ以テ罷業ノ黒幕タル市黨部（事務所及職員宿舍）鐵道黨部、圖書館新聞社平民報、國術館及市政府財政局第三課長向宋鼎私宅ニ手入ヲ行ヒ黨部關係者二名、國術館關係者三名、平民報社長、向宋鼎他ニ「ボ

「イ」二名 計九名

ヲ書類ト共ニ陸戦隊本部ニ連行シ訊問取調ベテ行ヒタル後身柄ノミ一  
一〇〇頃直接公安局ニ引渡セリ

第五。陸戦隊揚陸ヨリ撤收迄ノ一般經過概要

ト支那側ノ抗議

一 青島方面ノ情勢

陸戦隊揚陸後「日支衝突免レズ」等ノ謠言行ハレ就中滄口方面ノ人心  
動搖甚ダシク汽車、「バス」等ヲテ避難又ハ齟齬スル工人其ノ他兩三  
日ノ間毎日數百名ニ上レルガ其ノ後我海軍ノ公正ナル態度ニ一般支那  
人漸ク我ガ眞意ヲ諒解シテ其ノ業ニ安ンズルニ至リ爾後極メテ平穩ニ  
經過セリ

尙陸戦隊揚陸ト共ニ工場方面警戒ニ當リシ市公安局員及保安隊員ハ全

部工場外ニ退出シ公安局ハ四方滄口方面一帯ノ警戒ニ當リ保安隊ハ滄口以北舊租借地境界方面ノ警戒ニ任ゼリ

ニ支那海軍陸戰隊及韓復榘軍ノ青島方面集中

前者ハ威海衛ヨリ自動車及運送艦ニテ一ヶ大隊（約一〇〇〇名）増派セラレ五日滄口附近ノ部落ニ宿營警備ニ當リ後者ハ本漢章ノ部隊約一ニ〇〇鐵甲車二輛ニテ四日城陽即墨附近ニ到着シ萬一ニ備ヘタリ

ニ支那側ノ抗議

(1) 陸戰隊揚陸後市政府參事周家彥總領事館ヲ來訪シ口頭ニテ陸戰隊ノ上陸ハ主權ノ侵害ナルヲ以テ速ニ撤退サレ度旨抗議シ來リ市長ハ四日午後總領事ヲ訪問シ口頭ヲ以テ左記事項ヲ申述ベタルガ同月三日附公文（別紙第三）ニヨル抗議ニ接セリ

(1) 陸戰隊揚陸ハ支那主權ノ侵害ナレバ速ニ撤退スルコト

(2) 押收文書ノ急速返却

(3) 日本人ノ陰謀取締

(四) 四日外交部長ハ駐支大使宛三日附公文（別紙第四）ヲ以テ概ネ前項同様ノ抗議ヲ爲シ來レリ

尙駐日支那大使亦四日外相ヲ訪問右同様ノ抗議ヲ爲セリ

(ハ) 右ニ對シテハ夫々之ヲ反駁シ我正當ナル權利ト公正周到ナル態度ヲ明ニシ本事件ノ解決ハ一ニ支那側ノ誠意披瀝ニアル旨ヲ強調シ其ノ反省ヲ促セリ

我海軍ニ於テハ第三艦隊旗艦（十二月三日入港）青島ヲ去ルニ臨ミ十一日第三艦隊參謀長ノ名ニ於テ別紙第五ノ如キ聲明ヲ發表シ我ガ意ノアル所ヲ闡明セリ

支那ノ一般輿論

各地言論機關ハ殆ソド一様ニ我陸戰隊ノ揚陸ヲ以テ主權ノ侵害トナシ  
且徒ラニ事件ヲ擴大スルモノナリトシテ相當反日氣勢ヲ擧ゲシモ我公  
正態度ト青島ノ事態極メテ平靜ニ經過セル爲旬日ナラズシテ沈靜ニ赴  
キ加フルニ偶々西安事變ノ勃發ニ依リ殆ソド省マラレザルニ至レリ

#### 第六、事件ノ解決

工場ノ閉鎖及陸戰隊揚陸期間ノ長引クハ共ニ我ニ執リ不利トスル所ナル  
ヲ以テ

(イ) 工場ハ閉鎖ニ依リ自ラ悲鳴ヲ擧グルガ如キ印象ヲ與ヘザルコト

(ロ) 陸戰隊ハ其ノ威力ニ依リ充分其ノ目的ヲ達シ今後ノ見極メヲ立テ獨

自ノ見解ヨリ引揚グルモノナル立場ヲ失ハザルコト

ノ二點ヲ基調トシテ沈市長ト種々折衝ノ結果別紙第六（其ノ一及其ノ二）

ノ條件ニ依リ圓潮ニ解決シ斯クテ十二月十四日朝全工場一斉ニ開工ヲ見ルニ至レリ

第七、陸戰隊撤收ト其ノ後ノ情勢

一全工場再開後ノ各社ノ操業状態頗ル良好ニシテ一方一般輿論ハ西安事變ニ集中セラレシ關係モアリ青島ノ一般情勢次第ニ平靜ニ社々陸戰隊ヲ駐ムルノ要ナキニ至リシヲ以テ十二月十五日ヨリ順次左記ニ依リ之ヲ撤收二十三日午後ヲ以テ之ヲ完了セリ

- |     |      |    |              |
|-----|------|----|--------------|
| 第一次 | 十五日  | 午後 | 球磨、長良陸戰隊     |
| 第二次 | 十七日  | 午後 | 第二十二驅逐隊及葵陸戰隊 |
| 第三次 | 二十一日 | 午後 | 天龍、龍田陸戰隊ノ約半數 |
| 第四次 | 二十三日 | 午後 | 同右殘部         |

ニ支那陸軍ノ撤退ト支那陸戰隊ノ配備變更

我陸戰隊ノ揚陸直後即墨城陽方面ニ移駐シ來レル山東軍ハ我方撤收ニ伴ヒ城陽方面ハ十八日、即墨方面ハ十九日何シモ原駐地ニ復歸シ右兩方面ヨリ青島市郊外ニ移動シアリシ支那海軍陸戰隊ハ夫々舊配備ニ就キ威海衛ヨリ増援ノ支那陸戰隊亦原駐防地ニ歸還シ茲ニ青島方面ノ軍事の緊張漸ク緩和スルニ至レリ

ニ市政府要人一部ノ更迭

市政府當局其ノ後ノ取締漸ク實效ヲ擧ゲ來リ追放セラレシ不良工人ノ一部ノ潛入蠢動ヲ見シモ大勢ニ影響ナク一方市政府亦前述事件解決諒解事項ヲ相當誠意ヲ以テ實行スルト共ニ事件當面ノ責任者トシテ十二月二十四日附左記ノ如ク要人ノ新任命ヲ見タリ

新公安局長 李 毓 成 (前駐青辦公處長海軍大佐)

新社會局長 周 家 彦 (現市政府參事兼任)

尙沈鴻烈ハ十二月二十八日中央宛電請ヲ申請セルモ慰留サレ其ノ去就尙未決定ナリ

#### 第八、我警備艦船ノ行動

青島不穩ノ情勢ニ即應スル爲我海軍ニ於テハ北中文警備艦ノ青島集中ヲ行フト共ニ當時内地歸還ノ豫定ナリシ長良及第二十二驅逐隊ヲ引續キ青島方面ニ殘留セシメ一方内地ヨリ多摩ヲ増派セリ

第三艦隊ニ於テハ時恰ニ長官ゾ更迭期（八日於青島更迭）ニ在リシガ旗艦出雲ハ十二月三日上海發（五日着）直接警備ニ任ジ事件ノ成行ヲ見極メタル後十一日上海（十三日上海着）ニ向ハリ

警備艦ノ行動詳細別紙第七ノ如シ

尙萬一ニ備フル爲海軍中央當局ニ於テハ航空部隊ノ一部及特別陸戰隊ノ待機ヲ發令セリ

（終）



0484

11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
0200上海 →向青島 発		1100上海 着										
					1310青島 発吳へ		1400 吳着					
					1100青島 発法保へ	1500 法保着						
							0600 青島法保 着	1030 法保着				
		0700龍口 向芝罘 1915龍口 着		0800龍口 発1840 龍口着			0700威海 衛法保 旅順着					
						1615 青島法保 旅順へ	1825 旅順着					
0700龍口 向法保 発		1415龍口 着		0600龍口 発1230 法保着			0800法保 旅順着					

15  
5  
4  
3

4  
3  
2  
1

16

## 別紙第二

## 陸戦隊揚陸ニ關スル北支警備先任指揮官談

在青島邦人紡績各會社工人ノ罷業怠業問題ニ關シテハ纒ニ市政府ハ全責任ヲ以テ之ヲ鎮壓スル旨言明シタノデ我々ハ之ヲ信賴シテ今日迄之ガ平靜ニ歸シ速カニ安居樂業ガ出來ルノヲ待ツテ居タノデアアルガ其ノ後ノ情況ヲ見ルニ事態ハ遺憾乍ラ鎮靜スル模様ナク遂ニ我全紡績工場一齊ニ無期休業スルノ已ムナキニ至リ我權益並ニ居留民ノ生命財産ニ危險ヲ感ズルニ至ツタノデ我海軍ノ警備任務ト正義ニ基キ茲ニ聯合陸戦隊ヲ揚陸シ直接之ガ保護ニ任ズルコトトナツタ

此ノ際特ニ一言シタキハ互ニ流言蜚語ヲ慎シミ一時ノ興奮ニヨリ輕舉妄動セズ大局ニ鑑ミ速カニ事態ノ平靜ヲランコトヲ望ム次第デアアル、十二月三日〇五〇〇時

## 別紙第三

## 沈市長ノ抗議文

今回ノ罷業問題發生後市政府ハ各主管機關ニ調停解決方嚴命シ勞資双方ノ事情ヲ斟酌ノ上改善條件ヲ提出シ既ニ解決ノ希望生ジ復工方盡力中ノ處四方、滄口ノ各工場ハ罷業、未罷業共ニ昨日一齊ニ閉鎖シ二萬數千ノ失業者ヲ出シ重大社會問題ヲ醸成セリ又本日未明武裝セル日本海軍陸戰隊上陸シ各工場ニ配置スルノミナラズ恣ニ公務員其ノ他ヲ逮捕シ其ノ主權蹂躪ノ行爲ハ驚クノミテリ元來貴我双方ハ親密融和ノ間柄ナルニ拘ラズ突然意外ノ舉動アリタルコトハ市政府トシテ遺憾ニ堪ヘズ就テハ逮捕人員ノ釋放、今後此ノ種事態ヲ起サザルコトノ保障及陸戰隊ノ歸還方ヲ海軍側ニ轉知セラレ度尙詳細ノ事情判明次第重ネテ照會スベシ

## 別紙第四

外交部長ノ駐支大使宛抗議公文（三日附）

最近青島日本紡績工場ニ於テ工賃値上要求アリ労働爭議惹起シ地方官憲ニ於テ調停ニ當リ解決可能ノ状態ニアリ且工人方面ニモ何ラ不穩ノ行動ナキニ拘ラズ日本ハ突然陸戰隊約一〇〇〇名ヲ上陸セシメ九會社ニ分駐スルト共ニ別動隊數十名ハ市黨部鐵路黨部及警務所國術館等ヲ搜查シ重要文獻ヲ沒收抄録シ又國術館ノ秘書ヲ逮捕シタル旨ノ報告ニ接シタルガ日本ガ故ナク紡績工場ノ一齊停工ヲ行ヒ保護ニ名ヲ藉リ陸戰隊ヲ揚陸シ任意搜查逮捕ヲ行ヒタルハ只ニ風潮ヲ激化セシムルノミナラズ支那ノ主權ヲ破壞スルモノナルニ付嚴重抗議ス

就テハ大使ヨリ陸戰隊即時撤退、紡績工場現狀恢復シ逮捕者ノ釋放並ニ爭議ノ解決ハ地方官憲ノ調停ニ俟ツ等ノ諸項實行方取計ハレ度

尙其ノ非法行爲ニ對シテハ適當ノ要求ヲ保留ス

右至急御處置ノ上回答ヲ望ム

## 別紙第五

## 第三艦隊參謀長ノ聲明（十一日附）

今次事件ニ對シ日本海軍ハ當初ヨリ公正ナル態度ヲ以テ支那側ノ誠意アル解決ヲ要望シテ來タノデアアルガ支那當局ニ於テモ漸ク我ガ眞意ヲ認識シテ今日ノ如ク速カナル解決ヲ見ルニ至ツタ事ハ青島ノ爲洵ニ慶賀ニ堪エザル次第デアアル

由來青島ハ日本ト極メテ特殊ナル關係ニアル事周知ノ事實デアリ又從來日本海軍トハ因縁淺カラザルモノガアツテ我海軍ノ有スル關心ハ一層大ナルモノガアル從ツテ今次ノ事件ニ依リ禍ヲ轉ジテ福トナシ將來青島ノ明朗化ニ資セン事ヲ切望シテ止マザルモノデアアル

第三艦隊司令長官ハ支那當局ノ誠意ニ信賴シテ一先ツ旗艦出雲ヲ率キテ當

地ヲ去ルモ其ノ居ルト去ルトニ拘ラズ青島ニ對スル關心ニハ何等變ル所  
ハナイ

事態全ク平靜ニ歸シ實行ニ於テ支那側ノ詭意ヲ認め邦人ノ生命財産ニ危  
險ヲ感ゼザルニ至ラバ陸戰隊モ速ニ撤退スル意嚮ヲ有スルモノデア  
ル之ヲ要スルニ日本海軍ハ徒ニ事ヲ好ムモノニ非ラズ  
常ニ公正ナル態度ヲ持スルモノナルヲ以テ我誠意ニ信賴シテ再ビ平地ニ  
破亂ヲ捲キ起スガ如キ愚ヲ繰返ヘサザラン事ヲ要望ス

## 別紙第六（其ノ一）

## 紡績工場再開ニ關スル解決條項

一 解雇セラレタル不良工人中罪重キ者ノ處罰

ニ 右不良工人ノ青島市外ヘノ追放

工場側ヨリ既ニ追放ヲ要求セル者<sup>及</sup>今後追放ヲ要求スル者ニ付テモ同様ナ

リ

三 追放セラルル者以外ノ被解雇工人ノ取締ハ特ニ留意シテ嚴重之ヲ行ヒ事

件再發ニ關シテハ責任ヲ執ルベキコト

四 罷業背後ノ煽動者ノ青島市外ヘノ追放（「註」其ノ「リスト」ハ我方ヨ

リ提出済）

五 中國側ニ於テ工人ノ復職ヲ阻止スルガ如キ行動ヲ許サザルノミナラズ積極的ニ（官憲ノ告示其ノ他ノ方法ヲ以テ）復職方綱撻督勵スルコト

六 解雇セラレタル不良工人ヲ市政府ノ勤務員タラシメザルコト

七 將來公安局ハ獨自ノ見解ヲ以テ治安維持ノ爲不良工人取締ノ徹底強化ヲ期スベキコト

尙紡績ニテハ解雇手當ヲ支給セズ又休業中ノ手當ニ代ヘ出勤奨励金トシテ一定額ヲ與フルモ(出勤遅延ノ者ニハ減額ス)此ノ上工人ノ不穩行動ナキ様支那側ニテ嚴重取締ルコト



## 別紙第六（其ノ二）

西總領事ト沈市長トノ了解事項

## 一 黨部關係（市黨部及鐵路黨部）

邦人經營工場方面ニハ黨部ヲ一切活動セシメズ且一般的ニ外國關係事項ニハ黨部ヲ一切關與セシメザルコトヲ市長ガ國民黨中央委員タルノ個人ノ資格ヲ以テ中央黨部ニ進言シ以テ將來一切ノ排日活動ヲ爲サシメザルコト

## 二 國術館關係

(イ) 市政府ハ將來國術館員ガ國術本來ノ使命ヲ守リ決シテ排日其ノ他軌道外ノ行動ニ出デザル様嚴重取締ルコト

(ロ) 市政府ハ國術館ヲシテ四方、滄口ニ於テ國術練習所ヲ設立又ハ經營スルコトヲ禁止セシメ且日本紡績工場職工ノ國術練習所ヘノ入所練習ヲ

許サザルコト

三 市政府所屬機關ノ日本職員

市政府ハ現在青島市政府ノ附屬機關ニ招聘中ノ日本人職員辭職ノ際ハ新

ニ日本人職員ヲ招聘スルコト

四 新聞記事取締

市政府ハ國交ヲ妨害スル新聞記事ノ嚴重ナル取締ヲ爲スコト

昭和11-11-19  
至同 12-2

### 青島紡績罷業経過概要

工場名	所在方面	昭和11年11月19日	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	12月1日	2			
青島絲廠	藍家鎮方面					晝食時ツ工人 騒擾遂ニ工場閉鎖		閉鎖	晝食工約30名 一部操業		晝食工約100名 依休山中							
大日本紡	四方	1230工人 業セル 1600従業 (急業気分)		○各工場共稍小康				1330ヨリ運転停止 1500ヨリ工人全部一隊ト ト公安局ニ稟請工人釈 放數額ニ関シ 迄臨時休業	臨時休業	朝日操業開始	工人動搖	市販ト部合ツ 本日ヨリ3日間 閉鎖決定						
内外綿	〃																	
日清紡(隆興)	〃	0600罷業ニ入ル 40700従業 (急業気分)																
公大第五廠	滄口																	
富士絲廠	〃																	
長崎(廣末)	〃										2400運転停止 (木原若41名)	0100以前5人 全部退社 〇市販一部出 勤			不穩			
同興	〃							急業気分罷大 運転一部停止 0900迄業	2400ヨリ運転 中止	1330ヨリ工人全部 退出休業	休業							
豊田	李村		1100ヨリ不穩トシ 迄ニ1300工場 閉鎖ス	1800再開														
上海	〃																	
記事		市販極力 取締ニ任ジ アルモ不徹底 ナリ						工場外ニ出テアル人多 數ヲ以自動車ニ投石 邦人ノ名義傷レ工人20 名検査セル (右傷者ニ對シテ公安 局長林領事署署長 ヲ訪見陳情トシ救済 ヲ請フモ未ダ解決セ ズ但シ地方官ニ投訴ス) 右事件ニ對シテ救済 ニ努力シ1900頃至 ルニ至リテ林領事 長ニ對シテ陳情ス 林領事長ニ對シテ 救済ヲ請フ	〇工人側要求ヲ認メ 01700市販工人鎖控 1布告ヲ察ス 〇同興紡7名即時 解雇 〇内外綿10名ハ 布告後3日以内ニ 解雇 〇公安局ニ稟請中ノ 工人30名中10名 復職				市販極力 取締ニ任ジ アルモ不徹底 ナリ	市販極力 取締ニ任ジ アルモ不徹底 ナリ	市販極力 取締ニ任ジ アルモ不徹底 ナリ	市販極力 取締ニ任ジ アルモ不徹底 ナリ	市販極力 取締ニ任ジ アルモ不徹底 ナリ	市販極力 取締ニ任ジ アルモ不徹底 ナリ

## 上海紡績會社罷業問題

(支那特報第十八號附屬)

## 一 罷業經過概要

(1) 十月中旬以來上海支那紡績鴻章、申新、豐恒、永安等ノ各紗廠ニ賃金問題ニテ罷業起リ十一月初頭表面概ネ沈靜ニ赴キシ所此ノ風潮ハ遂ニ東部方面邦人紡績ニ飛火シ十一月八日ニ至リ上海紡績及同興紡績ニ罷業勃發シ九日ニハ上海紡ノ第二、第三、第四、第五各工場ハ一齊ニ罷業シ更ニ十日ニ至リ東華紡績亦其ノ渦中ニ投ゼリ

右ニ對シ各會社ハ賃金五分増ヲ發表シ之ニ不服ナル者ノ退社ヲ命ジタルトコロ十一日午後工人側承服ヲ申出テ事件一先ツ解決セリト思ハレシモ十二日鐘紡第二工場ニ又々罷業起リ遂ニハ西部内外綿第六工場ニ波及シ(工場閉鎖)十八日ニハ内外綿第一、三、五、六、七、九ノ各工場ニ擴大セリ

一方十六日一八〇〇頃豊田紡績第二工場ニテハ晝夜交代時間ヲ利用シ暴動起リ機械其ノ他工場設備ヲ破壊シ暴徒ハ竹切レ、石、棍棒、煉瓦等ニテ鎮壓ニ赴キタル工部局武装警察隊ニ抵抗シ相方共相當ノ負傷者ヲ出セリ而カモ本暴動ハ純然タル工人爭議ニ基シモノニアラズシテ無賴ノ徒ヲ主体トスル外部ヨリノ計畫的使喚ニヨルモノト上  
 認メラレシ  
 海海軍陸戰隊司令官ハ二一四五中隊長ノ指揮スル約百名ヲ派遣鎮壓ニ任ゼシメタルガ暴徒ハ二三四五頃漸ク退散セリ  
 尙支那紡績ニ於テモ動搖絶エズ十七日賃金二分五厘乃至五分ノ値上ヲ發表シ之ガ緩和ニ努ムルココアリ英人經營紡績亦一部閉鎖スルノ已ムナキ情勢トナレリ

(四) 豊田紡績ノ暴動事件ヲ契機トシテ一時大イニ憂慮スベキ事態ノ惹起ヲ豫想セラレシモ其ノ後各方面多大ノ努力ニヨリ何等事件ノ勃發ヲ見

ザリキ  
概要左ノ如シ

月 日	一 二 三 四 五	二 三 四 五	二 三 四 五	二 三 四 五
記 事	<p>一 日華紡喜和工場及豊田紡閉鎖。内外綿大部閉鎖。上海紡績一部閉鎖</p> <p>右ノ外各工場全運轉</p> <p>ニ 工部局警察ハ内外綿女工四十一名ヲ檢束シ既ニ檢束中ノ上海紡女工二十九名ト共ニ治安攪亂罪トシテ五日乃至十日間懲役處分ニ附セリ</p>	<p>一 東部各工場全運轉、西部豊田紡、日華紡（夜ヨリ）閉鎖、内外綿大部閉鎖</p> <p>ニ 檢束女工奪還ヲ叫ブ罷業團ト警察隊トノ衝突事件アリ</p>	<p>罷業狀況同前ナルモ幾分下火トナル</p>	<p>日華紡喜和工場九割出勤セルモ同曹家渡工場ニ飛火閉鎖</p> <p>豊田紡閉鎖、内外綿出勤率漸次増加</p> <p>日華紡浦東工場夜ニ至リ閉鎖、曹家渡工場及豊田紡閉鎖</p>

二六	十八日以來閉鎖中ナリジ豊田紡操業開始出勤率九割 内外綿第一第二工場閉鎖
二七	日華紡浦東工場ノ外全部操業開始
二八	日華紡浦東工場操業開始出勤率八割 右ノ外東西各紡績全運轉トナリ罷業一先終熄ス
二九、四	日華紡浦東工場動搖休廠セシモ五日夜ヨリ操業開始六日 朝ヨリ全運轉トナル

ニ罷業ノ特色ト背後關係者ノ逮捕

罷業ノ特色ハ殆ンド前述青島紡績罷業ニ於ケルト同様ニシテ其ノ背後ニ共產系抗日人民戦線ノ（救國會）策動アリ支那側ニ於テモ事件ノ擴大悪化ヲ恐レ十一月中旬公安局ヨリ工部局ニ對シ救國會幹部逮捕ニ協力方ヲ依頼セリ

### 三 事件ノ解決

斯クテ十一月二十三日未明工部局警察ハ章乃器、沈鈞儒、沙千里、王造時、史良等救國會ノ首領ヲ秘密裡ニ逮捕身柄ヲ公安局ニ引渡セリ

罷業問題ハ特ニ背後關係等ノ爲容易ニ完全解決ノ曙光見ニザリシヲ以テ十二月十九日船津（紡績聯合會理事長）ハ杜月笙ヲ訪問鎮壓方ニ關シ杜ノ盡力ヲ求メシ所杜ハ二十日午前三時間ニ亘リ工人代表ト會見調停ニ努メタリ。其ノ際工人側ノ提出要求事項左ノ如シ

(イ) 逮捕セラレタル工人ノ即時解放

(ロ) 二割五分ノ増給

(ハ) 毎月日給二日分ノ精勤賞復舊

(ニ) 日曜日ノ作業時間ヲ規定通十二時間ニ短縮スルコト

(ホ) 故ナクシテ解雇セザルコト



(ハ) 工人ヲ壓迫セザルコト

茲ニ於テ紡績側ハ二十日夜會合ノ結果右要求條項ニ對シ

(イ) 拒絶 (紡績側ニ關係ナキ問題ナリ)

(ロ) 既ニ五分値上ヲ實行シアルモ薄給者ニ對シテハ更ニ若干考慮ス

(ハ) 拒絶

(ニ) 拒絶 (工程ノ關係上已ムヲ得ザルノミナラズ工人任意ニ規定時間以上

働ク次第ニシテ右ニ就テハ割増賃銀及食事ヲ給シ居レリ)

(ホ) 從來要求通り取計ヒ居ルヲ以テ回答ノ要ナシ

トノ態度ヲ決シ同夜船津ヲシテ社ニ傳達シ其ノ了解ヲ得タリ

斯クテ罷業ノ遷延工場ノ動搖ハ工人側自体ニ於テモ打撃ヲ蒙ルコト尠カ

ラザルモノアリ一方前項背後關係者ノ逮捕ト相俟ツテ概ネ第一項所載ノ

如キ經過ヲ辿リ相當執拗ナリシ罷業問題モ大ナル波瀾ヲ捲キ起スコトナ

クシテ終熄スルニ至レリ

(終)